

信頼係数 0.95 の μ の信頼区間は (1.586, 4.814) である。

問題 7.2 (P.122) : 正規母集団 $N(\mu, \sigma^2)$ から大きさ 12 の標本をとって標本平均と標本標準偏差を計算した。 $\bar{x} = 10.5, s = 3.6$ であった。信頼係数 0.90, 0.95 の μ の信頼区間は？

解答 : $n = 12$ のとき ,

$$P\left(\left|\frac{\bar{X} - \mu}{S/\sqrt{n}}\right| < t_{\alpha/2}(n-1)\right) = 1 - \alpha$$

となるのは , $\alpha = 0.10$ で $t_{\alpha/2}(n-1) = 1.796$, $\alpha = 0.05$ で $t_{\alpha/2}(n-1) = 2.201$, である。

信頼係数 $1 - \alpha$ の μ の信頼区間は ,

$$\left(\bar{x} - t_{\alpha/2}(n-1) \frac{s}{\sqrt{n}}, \bar{x} + t_{\alpha/2}(n-1) \frac{s}{\sqrt{n}}\right)$$

となるので，

$$\text{信頼係数 } 0.90 \text{ の } \mu \text{ の信頼区間は } \left(10.5 - 1.796 \frac{3.6}{\sqrt{12}}, 10.5 + 1.796 \frac{3.6}{\sqrt{12}}\right)$$

すなわち，(8.634, 12.366) を得る。

$$\text{信頼係数 } 0.95 \text{ の } \mu \text{ の信頼区間は } \left(10.5 - 2.201 \frac{3.6}{\sqrt{12}}, 10.5 + 2.201 \frac{3.6}{\sqrt{12}}\right)$$

すなわち，(8.213, 12.787) を得る。

問題 7.4 (P.123)： 2009 年の外国為替相場の対前期比が正規分布に従うと仮定して，その平均の信頼係数 0.9, 0.95 の信頼区間は？

解答： $n = 12$ で，データから \bar{x} , s^2 を計算。

$$\begin{aligned}\bar{x} &= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i \\ &= \frac{1}{12}(-1.0 + 2.3 + 5.8 + 1.2 - 2.7 + 0.2 \\ &\quad - 2.1 + 0.4 - 3.5 - 1.3 - 1.2 + 0.4) \\ &= -0.125\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}s^2 &= \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2 \\ &= \frac{1}{n-1} \left(\sum_{i=1}^n x_i^2 - n\bar{x}^2 \right)\end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &= \frac{1}{11} \left(((-1.0)^2 + 2.3^2 + 5.8^2 + 1.2^2 + (-2.7)^2 + 0.2^2 \right. \\ &\quad \left. + (-2.1)^2 + 0.4^2 + (-3.5)^2 + (-1.3)^2 + (-1.2)^2 + 0.4^2) \right. \\ &\quad \left. - 12 \times (-0.125)^2 \right) \\ &= 2.3913^2 \end{aligned}$$

$$s = 2.3913$$

$n = 12$ のとき ,

$$\alpha = 0.10 \text{ で } t_{\alpha/2}(n-1) = 1.7959 ,$$

$$\alpha = 0.05 \text{ で } t_{\alpha/2}(n-1) = 2.2010 ,$$

である。

信頼係数 $1 - \alpha$ の μ の信頼区間は ,

$$\left(\bar{x} - t_{\alpha/2}(n-1) \frac{s}{\sqrt{n}}, \bar{x} + t_{\alpha/2}(n-1) \frac{s}{\sqrt{n}}\right)$$

となるので ,

信頼係数 0.90 の μ の信頼区間は

$$\left(-0.125 - 1.7959 \frac{2.3913}{\sqrt{12}}, -0.125 + 1.7959 \frac{2.3913}{\sqrt{12}}\right)$$

すなわち , $(-1.365, 1.115)$ を得る。

信頼係数 0.95 の μ の信頼区間は

$$\left(-0.125 - 2.2010 \frac{2.3913}{\sqrt{12}}, -0.125 + 2.2010 \frac{2.3913}{\sqrt{12}}\right)$$

すなわち, $(-1.644, 1.394)$ を得る。

母平均 μ の区間推定 (非正規母集団, 大標本のとき): n が大きいとき, 正規近似 \implies 中心極限定理 (定理 6.1, P.90)

(中心極限定理の復習)

大きさ n の無作為標本 X_1, X_2, \dots, X_n

すべての i について, $\mathbf{E}(X_i) = \mu$, $\mathbf{V}(X_i) = \sigma^2$ とする。

標本平均 $\bar{X} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n X_i$ を考える。

n が大きいとき ($n \geq 100$) ,

$$\frac{\bar{X} - \mu}{\sigma / \sqrt{n}} \rightarrow N(0, 1)$$

を得る。これは ,

$$\frac{\bar{X} - \mathbf{E}(\bar{X})}{\sqrt{\mathbf{V}(\bar{X})}} \rightarrow N(0, 1)$$

とも書き直すことが出来る。

(X_i の分布の形状を必要としないというところがポイント)

(注意)

\bar{X} の平均，分散は，

$$\mathbf{E}(\bar{X}) = \mu, \quad \mathbf{V}(\bar{X}) = \frac{\sigma^2}{n}$$

となる。⇒ 定理 4.9 (P.62)

- 母分散 σ^2 が既知のとき：

n が大きいとき ($n \geq 100$)，

$$\frac{\bar{X} - \mu}{\sigma / \sqrt{n}} \rightarrow N(0, 1)$$

なので， $Z = \frac{\bar{X} - \mu}{\sigma / \sqrt{n}}$ とすると，近似的に，

$$P(|Z| < z_{\alpha/2}) = 1 - \alpha$$

となり，

$$P\left(\left|\frac{\bar{X} - \mu}{\sigma/\sqrt{n}}\right| < z_{\alpha/2}\right) = 1 - \alpha$$

を得る。

したがって，

$$P\left(\bar{X} - z_{\alpha/2} \frac{\sigma}{\sqrt{n}} < \mu < \bar{X} + z_{\alpha/2} \frac{\sigma}{\sqrt{n}}\right) = 1 - \alpha$$

\bar{X} を \bar{x} で置き換えて，信頼係数 $1 - \alpha$ の μ の信頼区間は，

$$\left(\bar{x} - z_{\alpha/2} \frac{\sigma}{\sqrt{n}}, \bar{x} + z_{\alpha/2} \frac{\sigma}{\sqrt{n}}\right)$$

が近似的に用いられる。

- 母分散 σ^2 が未知のとき：

さらに， n が大きいとき ($n \geq 100$)，母分散 σ^2 をその不偏推定量 S^2 で置き換えて，

$$\frac{\bar{X} - \mu}{S/\sqrt{n}} \rightarrow N(0, 1)$$

を得ることができ (証明略)。

よって， $Z = \frac{\bar{X} - \mu}{S/\sqrt{n}}$ とすると，近似的に，

$$P(|Z| < z_{\alpha/2}) = 1 - \alpha$$

となり，

$$P\left(\left|\frac{\bar{X} - \mu}{S/\sqrt{n}}\right| < z_{\alpha/2}\right) = 1 - \alpha$$

を得る。

したがって、

$$P\left(\bar{X} - z_{\alpha/2} \frac{S}{\sqrt{n}} < \mu < \bar{X} + z_{\alpha/2} \frac{S}{\sqrt{n}}\right) = 1 - \alpha$$

\bar{X}, S^2 を \bar{x}, s^2 で置き換えて、信頼係数 $1 - \alpha$ の μ の信頼区間は、

$$\left(\bar{x} - z_{\alpha/2} \frac{s}{\sqrt{n}}, \bar{x} + z_{\alpha/2} \frac{s}{\sqrt{n}}\right)$$

となる。

問題 7.3 (P.122)： 勤労者世帯の年間収入の全国平均を調べるため、4271 世帯の年間収入を調査したところ、平均が 712 万円、標準偏差が 357.4 万円であった。年間収入の全国平均の信頼係数 0.9, 0.95 の信頼区間は？

解答： 問題の再解釈 \Rightarrow

平均 μ , 分散 σ^2 から大きさ 4271 の標本をとって標本平均と標本標準偏差を計算した。

$\bar{x} = 712, s = 357.4$ であった。信頼係数 0.90, 0.95 の μ の信頼区間は？

$n = 4271$ のとき , t 分布の正規近似によって ,

$$P\left(\left|\frac{\bar{X} - \mu}{S/\sqrt{n}}\right| < z_{\alpha/2}\right) = 1 - \alpha$$

となるのは , $\alpha = 0.10$ で $z_{\alpha/2} = 1.645$, $\alpha = 0.05$ で $z_{\alpha/2} = 1.960$, である。

n が大きいとき , 信頼係数 $1 - \alpha$ の μ の信頼区間は ,

$$\left(\bar{x} - z_{\alpha/2} \frac{s}{\sqrt{n}}, \bar{x} + z_{\alpha/2} \frac{s}{\sqrt{n}}\right)$$

となるので ,

信頼係数 0.90 の μ の信頼区間は

$$\left(712 - 1.645 \frac{357.4}{\sqrt{4271}}, 712 + 1.645 \frac{357.4}{\sqrt{4271}}\right)$$

すなわち , (601.5, 822.5) を得る。

信頼係数 0.95 の μ の信頼区間は

$$\left(712 - 1.960 \frac{357.4}{\sqrt{4271}}, 712 + 1.960 \frac{357.4}{\sqrt{4271}}\right)$$

すなわち , (580.4, 843.6) を得る。

7.3.3 分散の区間推定 (P.117, 時間に余裕がなければ省略)

大きさ n の無作為標本 X_1, X_2, \dots, X_n は互いに独立であり ,